

ときめき人

Tokimeki bito

出会いの大切さを 子どもに伝える 鉄道写真家



南方町(大門)出身

武川 健太さん

むかわ けんた
1993年生まれ 血液型/O型

Profile

東京工芸大学芸術学部写真学科卒業後、23歳からフリーランスの鉄道写真家として活動をはじめ。JR東日本の広告撮影、H@FMパーソナリティ、児童・学生向け講座など、市内外で多岐にわたり活躍中。



「子どもたちが自分のやりたいことを見つけ、行動が起こせるきっかけをつくりたい」と笑顔を見せる武川さん。

現在、鉄道写真家として活動する一方、講演会などで全国を飛び回り活躍している。明るく前向きな武川さんだが、中学生のときに、引きこもりを経験。「無理に明るい自分を演じ続けたことで、心が折れてしまった」と当時を振り返る。

どん底にいた武川さんを救ったのは、中田町にあるけやき教室(適応指導教室)での、一人の先生との出会いだった。幼いころから鉄道好きだった武川少年がデジカメで撮りためた写真を、先生は興味深そうにじっくり眺め、笑顔で絶賛。「正面から向き合ってくれた先生の姿が今でも忘れられ

ません。人に認めてもらえたことが大きな自信になった」と、鉄道写真家を目指すきっかけに。

講演では夢を持つことの大切さや不登校をテーマにすることが多い。「嫌なことからは逃げた方がいい。無理して苦しい場所に居続けるよりも、自分が行きたい場所、やりたい世界に飛び込んだ方が、楽しい人生が待っている」と自らの経験から悩みの解決方法を伝え歩く。明日なんか来なければいいと思っていた中学時代が、ひとつのきっかけによって一転し、明日が待ち遠しいと感じるほど充実した日々が変わった。

自分を救ってくれた先生のような存在に一。何事にも真剣に取り組む武川さんの姿が、子どもたちの心のフィルターを外していく。

編集後記

▼味覚以外の秋も味わいたいと思っていた先月。そのかいあってか、登米懐古館のオープン、劇団ドリーム☆キッズのミュージカルの取材で文化・芸術に、国体優勝した遠藤さん、中総体新人戦の取材でスポーツに触れることができました。取材を通してですが、秋を満喫しました。(小野寺)

▼皆さんは、「座右の銘」を聞かれたら何と答えていますか。私は今まで、特に心に決めていた言葉はありませんでした。先日、なんとなく耳にした言葉が「幸せは不幸の顔してやってくる」。プラス思考になれるこの言葉を胸に、これからは嫌なことにも積極的に取り組んでいきたいと思えます。(三浦)

▼ついに消費税率が10%に。新たなポイント還元制度で注目されているのがキャッシュレス決済。キャッシュレスの決済サービスは種類が多く、どれがいいのかわかりません。出遅れましたが、これから調べてキャッシュレス生活を始めてみようと思えます。(高橋)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>